

# 日刊建設工業新聞

令和5年5月31日(水曜日)



高速道路

## 4車線を標準にすべき 自民党・参院国交委で質問

自民党の足立敏之参院議員が30日の参院国土交通委員会で、高速道路網の将来像などについて質問した。写真。足立議員は米国や欧洲各国、韓国などと高速道路の整備水準を比較し「日本は2流、3流」と断じ、インフラ投資への姿勢が高

速道路の整備水準に直結しているとも指摘。ミッシングリンクや暫定2車線区間を解消する重要性を説き、「生産性や安全性の高い4車線を高速道路の標準にすべき」と訴えた。

道路整備特別措置法(特措法)

・債務返済機構(高速道路機構)法の一括改正案の審

議に当たって、更新財源を安定的に確保した上で高速道路の整備をどう進めるか、斎藤鉄夫国土交通相と丹羽克彦道路局長に説明を求めた。

斎藤国交相は欧米・近隣諸国から整備水準で立ち遅れています。実情を認めながらも「日本の国土は急峻(きゆうしゆん)で細長く、国

民の安全意識も高いため規格の高い道路になつていい。これからも防災・減災に寄与し産業構造をしっかりと支えるため、国土形成計画に従つて整備しないといけない」と強調。今夏にも決定する次期国土形成計画で「シームレスな拠点連続型国土」の構築などが打ち出されていることを踏まえ、「必要な機能強化を進めたい」と述べた。

丹羽局長は「改正法案で確保される財源は更新事業に優先して充当する」としながらも「国土強靱化などの社会的要請を踏まえ、交通事故が集中する区間、災害時の通行止めリスクが高い区間の4車線化、耐震補強なども必要」と指摘。ミッシングリンクの解消には、地元自治体の意向や適切な事業評価を通じ新規事業化を検討する必要性を説明した。

# 高速道路整備の一層推進を



## 足立議員 参院国交委で主張

自民党の足立敏之参院議員は、道路整備特別措置法など改正案の審議が行われた30日の参院国土交通委員会で、国土交通省に高速道路整備の進め方を質問した。日本と欧米や韓国を比較した高速道路整備水準のデータを示しながら「世界から見ると、日本の高速道路は二流、三流だ」と指摘し、改

正法案を成立させて国際競争力強化などの観点から整備を一層進める必要があると主張した。写真。

足立議員は、日本の高速道路は暫定2車線区間が40%を占める一方、欧米や韓国はほぼ全区間が4車線以上で整備され、こうした国

くためには、今回の法律を通して、道路整備をしっかりと進めていくことが不可欠」と主張した。

「ミッキングリンクと暫定2車線区間の解消、老朽化対策などの必要性を示し、高速道路の料金徴収期間を最長2115年まで延長することでの確保される財源の使途を質問した。丹羽克彦国交省道路局長は「更新事業は適切に実施されなければ、高速道路の安全が担保されないことから、改正法案で確保される財源は更新事業に優先して充当する。その上で、国土強靭化などの社会的要請を踏まえ、交通事故が集中する区間または災害時の通行止めリスクが高い区間の4車線化、耐震補強などの進化事業を行うことも必要と考えている」と答弁した。